～歴史文化まちづくり、かるたで紡いだ意志･情報･共感～

令和3年地域政策研究センター　地域協働研究【ステージⅡ】 採択課題

課題名：歴史文化から耕す地方都市における住民主体・連携によるまちづくりの実践とモデル構築
研究代表者：総合政策学部　教授　倉原宗孝
課題提案者：紫波歴史研究会　（紫波歴史研究会HP　http://gorounuma.jp/）
研究メンバー：佐藤観悦（紫波歴史研究会）大沼信忠（同）
今野公顕（総合政策研究科博士後期）
技術キーワード：歴史・文化　紫波町　歴史かるた　かるた大会

▼研究の概要（背景・目標）

歴史文化遺産は、人々の生活や風土との関わりにおいて生み出され、現在まで守り伝えられてきた貴重な地域資源である。しかし多くの住民はその存在が身近過ぎて十分に理解されることが少ない。一方で今日、人口減少・少子高齢化、経済・産業の低迷など多くの課題がある。こうした課題を乗り越える視点の一つとしてここでは歴史文化を掲げ、そこに内在する素材の活用を地域各主体と協力しながら実現していく。その一つの成果として「紫波歴史かるた」創作とそれを用いた「紫波の歴史かるた大会」の実施に向かった。

▼研究の内容（方法・経過）

大きくは次の点から取り組んだ。

①町内各地区の歴史資源の収集・整理・活用・
②歴史資源をテーマ・素材にした企画開発
③紫波の歴史を題材にした「歴史かるた」創作
④「第一回　紫波の歴史かるた大会」の実践

既存の歴史情報を拡充しつつその整理と展示などの実践（①）、それを活かした各種企画を大学生も交えて創作し町内関係者と議論した（②）。その中の一つとして今回、紫波の歴史を題材にしたかるたを地元高校生も参画して各団体の協力のもと創作（③）、作られたかるたを使って内外参加による「第一回紫波のかるた大会」を実践した。

▼学習･現地調査･歴史資源を活かす企画提案

屋内での学習・議論、町内各現地での調査・情報収集を重ねた。発見・認識した各種の歴史文化素材を題材にした様々なまちづくりの提案と検討を進めた。

各学習や町の探索のもと学生と町内外関係者との議論が交わされた。世代を交えた検討は相互を刺激した。

歴史文化を活用した学生からの各種企画を題材にその利活用・実現や今後のまちづくりを検討。青少年の学習、男女の出会い、体験型観光、季節の行事・イベント、スタンプラリー、フォトスポット、歴史とコラボした食の開発など多数提示された。

いずれも実現したいが労力・資金・技術・制度等の点からすぐには難しい。思案する中で、幾つかの地域で取り組まれている郷土かるたに着目。所持する歴史情報を掲載できる。半世紀前に作られた紫波かるたを現代的に復活させる意義と価値がある。

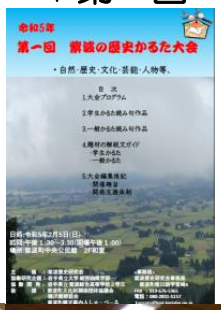
【紫波の歴史かるた創作と実施へ】

▼多世代・多主体参加のかるた創作

学童クラブやコミュニティスペースなど人が集まる場で創作活動を呼びかける。特に今回は地元紫波総合高校の参画協力が大きかった。3回の学習時間で読み句を作成､発表も行われた。

合わせてSNS等で広く読み句の募集を行う。約300件の作品が寄せられた。絵札は今回は研究会が所持する写真を活用することに。大学生選考メンバーで読み句、写真の選定。「一般かるた」「学生かるた」2種の紫波歴史かるたができた。

▼第一回　紫波の歴史かるた大会の実現



令和5年2月5日「第一回紫波の歴史かるた大会」が実施。今後も持続していく意思として「第一回」が付されている。大会は大盛況だった。子供から高齢者まで内外の多様な人々の参加のもと、遊び心を込めたテープカット、選手宣誓にはじまり、「一般かるた」「学生かるた」の2部制で競われた。最後に表彰式と参加者にユニークな賞が手渡され無事大会は終了。非常に充実した場だった。

【謝辞】研究活動、かるた大会実施において多くの真摯なご協力を頂いた。特に紫波総合高校の皆さんの協力は大きかった。皆様に深く感謝する。

●持続展開に向かうこの後

かるた大会の成功は関係者の意欲を弾ませ内容拡充のもと持続展開していくことに。協力メンバーも高校生をはじめ広がっている。未着手の他の企画も実現すべく更なる活動へ展開している。